

制作・問い合わせ先

# 埼玉県高校図書館フェスティバル 実行委員会

ホームページ ▶ <https://shelf2011.net/>  
Twitter ▶ [https://twitter.com/shelf\\_20110219](https://twitter.com/shelf_20110219)  
Gmail ▶ [saitama.ichioshi@gmail.com](mailto:saitama.ichioshi@gmail.com)

## 大切な本の補強や補修ができる 道具と材料のセットです



- このセットがあれば /
- 本をキズや汚れ、紫外線から守れる!
- 破れたページをキレイに補修できる!
- 背や小口部分、のどの補強・補修ができる!

商品の詳細はこちら



本を保護する用品いろいろ!

ブックカバー・ジェイピー 楽天市場店

<https://www.rakuten.co.jp/bookcover/>

制作協力(パンフレット印刷): 社会福祉法人 埼玉福祉会

宮島未奈	1	成瀬は天下を取りにい
新郷社	2	この夏の星を見る
KADOKAWA	3	私たちの世代は
尾瀬まいこ	4	続 窓ぎわのトットちゃん
黒柳徹子	5	レーエノン国物語
舘談社	6	祖母姫、ロンドンへ行!
小寺龍	7	宙わたる教室
文藝春秋	8	推しの素晴らしさを語りたいのに「やばい!」しかできなくてこない
三宅香帆	9	世界でいちばん透きとおった物語
新郷社	10	リカバリー・カバリエ



埼玉県の高校図書館司書が選んだ

# イチオシ本

## 2023

2024年2月発表!  
Take Free!

「これはホームラン級の作品と確認ください」

2023年版は、2022年11月~2023年10月までに出版された本を対象に、142名より193タイトルの応募がありました。

応募時に投票者がつけた順位の高い順に、おすすめ度(ベスト1~3)を2~3冊を挙げて、おすすめ度の高い順に10作品を選びました。

推薦した冊数のコメントや10位以降の作品の詳細はホームページにも掲載されています。ぜひご覧ください。

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本

# イチ王子

10周年記念・公式キャラクター

これがイチオシ本なのだ!

イチオシの国の王子。

みんなにびびったりの本をオススメできる立派な王様になるのさ。

10歳の誕生日に見たふしぎな夢のなかでサタメツのコウコウシヨたちと友だちになった。

いろいろな本との出会いをイチオシパワに変えながら、本の楽しさを伝えていこう!

## まだまだあります! イチオシ本

惜しくもベスト10には入りませんでした、司書イチオシの本たちです。

- 27000冊ガーデン(大崎梢/双葉社)
- ◆学校図書館が舞台の日常系ミステリ。実際に出版されている本が多く登場するので気になった本は図書館で読んでみてね。お仕事小説でもあるため、学校司書という職業に興味がある人にもおすすめ!
  - ◆本について、相談したいことがあったら、なんでも声をかけてね。本好きの生徒を守るのと、増やすのが、学校司書の務め。
  - ◆ありそうで無かった(?)高校司書が探偵役のミステリー。実在する本がたくさん登場します。
  - ◆学校司書が出入りの書店員とともに事件を解決するという斬新なミステリー。学校図書館が身近な高校生にぜひ読んでほしい。
- いとエモし。(koto/サンクチュアリ出版)
- ◆きれいなイラストと親しみやすい訳が、古典を身近なものと感じさせてくれます。◆時代を超えて共感することの良さを知り、古典を好きになるキッカケにしてほしい。◆古典+素敵なイラスト! 美しいです。
  - ◆「いとをかし」は「まじエモい」のことか……。そう思って読めば、古典の名作に血が通って読めてくる。1000年前の作品に親しみを持つのにピッタリの一冊。
- くもをさがす(西加奈子/河出書房新社)
- ◆外国で病氣と闘う著者、潔い姿勢がすがすがしい。
  - ◆がんと闘う著者の姿は前向きで力強い。カナダでの素敵な生活や仲間たちも魅力です。
- 体育がきらい(坂本拓弥/筑摩書房)
- ◆体育の先生が図書館を通りかかると、ドキッとしてみます。
  - ◆体育が好きなのに嫌いな子にも、「明日は体育があるから学校に行きたくない」毎日そんな思いで過ごしていた過去の自分にも手渡したい。
  - ◆わかるぞその気持ち。どうせなら掘り下げてみよう。
- 巨大おけを絶やすな!(竹内早希子/岩波書店)
- ◆八方塞がりの状況から立ち上がる力強さを感じます。食文化を歴史を通して見つめられます。◆伝統文化、産業、環境...大切なことは全て繋がっていると感じさせられるお話でした。
- 歌われなかった海賊入(逢坂冬馬/早川書房)
- ◆ナチ体制下のドイツ、自由のない社会のなか、隣りに強制収容所らしきものが建てられているのを知った若者たちが取った行動とは。重いテーマなのに、引き付けて読ませる筆力がすごい!
  - ◆今の情勢に「何かしなければ」と思うすべての人に薦めたい本です。
  - ◆都合の悪いことから、目を背けず、「悪」に立ち向かうこと。それは、大人になるほど難しくなるのかもしれませんが。だからこそ、現代を生きる高校生皆さんに、この本を読んでほしいと強く思います。
- 月の立つ林で(青山美智子/ポプラ社)
- ◆人と人の繋がりが最高です。読後感が良く、「ポッドキャスト、私も使ってみようかな」と思いたくなる作品でした。◆オススメしたい理由は2つ。1つは、私たちはみんな、どこかで誰かとつながっていると感ぜられるから。もう1つは……ネタバレになってしまうので、秘密です!
- 近畿地方のある場所について(背筋/KADOKAWA)
- ◆モキュメンタリー的手法を取り入れた作品で、読んでいくうちにこの場所を探してしまうほど面白かった。怪談を集めていくうちに断片的に共通点に気づく、これを読んだだけでももしかしてと思うほどだった。
  - ◆第四の壁から、じわじわと染み出してくる怖さ。
  - ◆恐かった。ホラー特集におすすめです。
- 奇跡のフォント(高田裕美/時事通信出版局)
- ◆図書館だよりや館内サイン、ありとあらゆるところでお世話になっているフォントが世の中に出るまでの物語は目から鱗だった。◆本には欠かせないけれど忘れられやすい、「書体」。なぜ、UD体は読みやすいのか、教科書が読めないとは? 書体デザイナーという仕事を知ってほしいです。
- アリアドネの声(井上真偽/幻冬舎)
- ◆さまざまな要素が詰まった災害救助サスペンス。学べる知識も多く、面白い小説おすすめです。
  - ◆「人を助けたい」という気持ちと、そこに潜む考えについて、深く考え込む一冊。ぜひ結末まで見届けて下さい。
  - ◆誰かを救いたいという想いは人を強くし、そこには決して人による差はないのだと思わせてくれる。
- 動物たちは何をしゃべっているのか?(山極寿一、鈴木俊貴/集英社)
- ◆著者の山極氏は元京大総長。霊長類の第一人者。鈴木氏はシジュウカラの鳴き声をリサーチする動物行動学の権威。そんな2人の対談集。以前は動物たちは会話なしと思われてきた。しかし、鈴木氏のフィールドワーク等の研究が進んできてそれが否定されている。動物も人間同様に会話を通してコミュニケーションをしているという。そうした知られざる動物世界をわかりやすい注釈つきのやりとりで覗いてみませんか。
  - ◆動物たちのコミュニケーション能力に驚かされます。動物の言語研究はヒトの本性を知ることもつながっています。動物行動学や言語学に興味のある高校生におすすめしたいです。

- ◆シジュウカラの研究者とゴリラの研究者が語り合うそれぞれのコミュニケーション。動物たちもそれぞれのやり方で会話しているのです。ではこれからの人間のコミュニケーションとは?
- ◆知りたい気持ちに火をつけろ!(木下通子/岩波書店)
- ◆今、学校図書館はどんな場所なのか? 司書として何が出来るのか? ということを考えさせられました。
- ◆学校図書館司書による、学校図書館を紹介する、高校生に向けた本。迷う余地なくおすすめできる一冊です。
- ◆学校図書館ってどんなところ? に答えてくれる一冊です。読めばもっと図書館を好きになる!
- ◆千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話(済東鉄陽/左右社)
- ◆リアルなろう小説。教育の可能性を知ることができる。
- ◆教室を生きのびる政治学(岡田憲治/晶文社)
- ◆クラスの決め事でも政治学が働いている。教室半径5メートルを安心して暮らす政治学=力学とは!?
- ◆「何のために議論をするのか?」高校生のうちに知っておきたかった。
- ◆「政治」というものは、言葉のイメージから想像するよりもずっと、私たちの身近なところにあるものなんだと感じられます。
- ◆ひとりあそびの教科書(宇野常寛/河出書房新社)
- ◆SNSで常に他人とつながり、評価にさらされるこの時代。自分だけの世界に没入できる趣味も持っている、いいことがあります。きっと。
- ◆「ひとり」を極める大人はカッコいい! 読むだけでわくわくする、ちょっと奇抜な中高生の趣味ガイド。
- ◆ツクサナツコ的一生(益田ミリ/新潮社)
- ◆今を大切に。
- ◆さみしい夜にはペンを持って(古賀史健・著、ならの・絵/ポプラ社)
- ◆書くことがあまりなくなっている昨今だが、自分を励ますために書くのだと気づかされる本。
- ◆自分のもやもやした嫌な感情をどうしたら整理できるのか? その方法が、とてもわかりやすく親しみやすく、物語調で書かれています。明日を生きる術を学べる一冊。
- ◆美術の進路相談(イトウハジメ/ポプラ社)
- ◆職業案内の本というより、まさに進路相談! 文面から先生の声が聞こえてきそうです。
- ◆絵に関わる仕事だけでなく、絵を描くときの物の見方や、絵に関わる人生について教えてくれる本です。
- ◆数学にはこんなマニアックな役立て方や楽しみ方があるという話をあの人やこの人にディープに聞いてみた本1(数学セミナー編集部/日本評論社)
- ◆数学と聞いただけで鳥肌が立つ人に贈りたい、数学がわかるとこんな世界が広がるのか、と教えてくれる本。難しい数式も出てきますが、理解できなくても大丈夫。
- ◆数学に魅せられた人たちのインタビュー集、全3巻。脚本家、サッカー選手、装丁家など、意外なジャンルの人もいるので、興味のある人だけでも読めるのも魅力。数学と付き合いたくなる本。
- ◆神田くろ町職人ばなし1(坂上暁仁/リイド社)
- ◆あそこやって江戸時代の人々は働いていたのかも? と思える1話完結型の漫画。淡々と、かつ丁寧に江戸時代の職人の技が描かれています。
- ◆仕事の髓が感じられるようなマンガです。特にものづくりに関係する進学や就職を考えている生徒におすすめです。
- ◆悪口ってなんだろう(和泉悠/筑摩書房)
- ◆悪口について言語学の観点から解き明かしていきます。説教くさくないです。
- ◆サクラサク、サクラチル(辻堂ゆめ/双葉社)
- ◆この2人は極端な家庭かもしれないけれど、自分の家の当たり前は他の人にとってそうではない、ということがよく分かる。困難な中でも自分の人生を決めるために、考えるきっかけになる本。
- ◆ことばの白地図を歩く(奈倉有里/創元社)
- ◆言語を学ぶ時のお供にしたい本。新しく言葉を知るのことはことばの子供時代を作ること、興味のあるものが世界を超えて共通の文化になること。新しい世界を知る時のわくわく感が伝わってきます。
- ◆新しい言語を学ぶことの楽しさが伝わってきます。
- ◆777(伊坂幸太郎/KADOKAWA)
- ◆「殺し屋」シリーズの最新刊。安定の面白さです。この本から読んでも楽しめます。
- ◆10代のための疲れた体がラクになる本(長沼睦雄/誠文堂新光社)
- ◆疲れた心身のメカニズムや対処法がわかりやすく記載されている。
- ◆「疲れた体」を自分なりにメンテナンスして、楽しく有意義な高校生活を! 滅滅特区の静寂(大宮崇裕/二見書房)
- ◆架空の歴史を納得させる。緻密で苦しい人間心理。エンタメはこうありたい。無人島、研究と冒険、半分半分。(川上和人/東京書籍)
- ◆本当に楽しそう。

ここで紹介しきれなかったイチオシ本たちは、埼玉県高校図書館フェスティバルホームページに掲載しています。詳しくは <https://shelf2011.net/> をご覧ください。

